

# ノロウイルス等の感染症予防とブレイクアウト対策

(社)九州産業コンサルタント協会 安全防災委員会

労働安全・衛生コンサルタント 田村 浩一

## 1. はじめに

熊本地震により、阪神淡路震災、東北震災にあまり報道されなかった感染症が問題になってきています。感染症とは、ウイルス・細菌など病気のもとになる病原体が体の中に侵入して増えることを感染する（うつる）と言います。以前は皆様ご存知の通り感染症は伝染病と呼ばれておりました。

## 2. 集団避難所の感染の原因

- (1) 人と人の空間がないのでウイルスが蔓延しやすい。
- (2) 不潔な環境になりやすく、衛生状態も悪くなりやすい
- (3) 何週間もこの空間がない状態が続くので症状が重篤化しやすい。
- (4) 避難所の中には土足で入らせているところがある。靴の裏には土・泥・細菌が付着しているので、避難所の中に細菌をばらまく可能性がある。
- (5) 避難所の細菌対策
  - ①避難所入口に消毒液を浸したマットを置いて、入場の際はマットの上を歩かせる。
  - ②ビニール袋を用意して、入場の際は靴をビニール袋に入れて入場させる。
  - ③トイレ、洗面所の消毒、手洗い等の励行、生ごみ、ごみ袋等の早期回収・処分

## 3. ノロウイルスについて

感染症の中で一番今問題となっているのはノロウイルスによる急性小腸炎です。

### (1) 感染源

- ① 感染者の嘔吐物
- ② 感染者のふん便
- ③ 人が素手で触わる可能性のあるもの  
刺身、寿司、漬物、野菜サラダ、キャベツ、サンドイッチ
- ④ 加熱後手で触わる可能性のあるもの  
ポテトサラダ、のり巻き餅、おはぎ
- ⑤ かきや二枚貝 ⇒ 加熱調理が必要

### (2) ノロウイルスの潜伏期間と症状

#### ① 潜伏期間

口に入って12時間～72時間の潜伏期間

#### ② どこがやられるのか

小腸の上皮細胞に感染し増殖することから小腸に炎症を起こして腹痛、下痢を起こす。

#### ③ 年代による症状の差異

症状	年代
嘔吐	子供、高齢者
下痢	成人、高齢者

血便はほとんどない。高齢者は体力がないので、症状が重篤化しやすい。

④ ノロウイルスは何回でもかかる。免疫がない。

風疹などは一度かかって回復すると一生かかることはない。

⑤ ワクチンなど

ワクチンもない、特効薬もない。

治療に必要なことは、下痢・嘔吐によって失われた水分を十分に補給すること。

### (3) ノロウイルスの特徴

① **アルコールに強い**

**一般的に使われている70%アルコール溶液は効果がない。**

② 感染力が非常に強い

③ 径が小さい ⇒ 手のしわに入り込む

④ **症状がよくなってもしばらくはノロウイルスを排出する。**

**治っても1週間は手洗い、うがいを欠かさずに！**

⑤ 乾燥に強い

ふん便は乾燥してしばらくは空気中に漂い、その後舞い降りてきて

影響を及ぼす。

### (4) ノロウイルスに対する感染症予防対策について

① **殺菌には次亜塩素酸ナトリウム（次亜塩素酸ソーダ）を使用する。但し手荒れに注意**

対象物	溶液の濃度
嘔吐、ふん便箇所	5000ppmペーパータオルで覆う30分⇒ 1000ppm清拭
患者使用のリネン類、下着	1000ppm、30分浸漬
まな板、包丁、調理器具	1000ppm、30分浸漬
トイレ、浴槽	300ppm以上で清拭
ドアノブ、テーブル	200~500ppmで清拭

② 徹底した手洗い

液状石鹼（固形石鹼は回し利用されるので不可）で手首、手の甲、指の間、指の根元指の先等をしつこくこする。⇒流水で洗い流す⇒拭きあげる。

ノロウイルスは手のしわの奥に入り込んで付着しているので注意が必要

③ 加熱消毒

物体中心部の温度が85℃で1分間かければ加熱消毒できます。

④ アルコールに酸若しくはアルカリ性の物質を添加している物も使用されている。

⑤ トイレ

トイレは非感染者用と感染者用に分ける。

感染者用は出来るだけ個室にする。

手洗いは個室の中に設置し、流水とする。

トイレ専用のスリッパを設ける。

ドアノブ、便座はその都度次亜塩素ナトリウム200ppmで消毒する。

⑦ 汚物に触れたビニール手袋、ペーパータオルの処理

一度使用したビニール手袋、ペーパータオルなどは再使用しないこと。

使用した都度専用の収納庫に破棄する。

#### 4、参考事項:ブレイクアウト(集団発生)予防対策と発生時の対応

ブレイクアウトとは、一定期間内に特定の細菌や耐性菌の増殖率、分離率が上昇することによって、感染症の患者数が通常の症例数を超え複数発生した状態のことです。

ブレイクアウトを防止するためには、人の手洗い、うがい、衛生管理の励行、靴、床、出入り口、ドアノブ等の消毒、そして、子供や高齢者に対する適切な糞便等のふき取りと消毒、オムツ等の確実な回収、ごみ及びゴミ袋の散乱防止・回収処分を徹底するようにしなければなりません。

\* 避難所、こども園、高齢者福祉施設、病院等では、日常的な検査、サーベイランス、感染症定期検査衛生上の日常点検、管理報告体制を充実させ、兆候がある場合は早期に消毒、隔離等を行い拡大の予防措置を実施することが重要である。

以 上